

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
トライデント コンピュータ 専門学校		昭和59年3月31日		中原 千賀子		〒 450-0002 (住所) 愛知県名古屋市中村区名駅3-24-15 (電話) 052-581-0581		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 河合塾学園		昭和53年8月1日		河合 英樹		〒 464-0850 (住所) 愛知県名古屋市千種区今池2-1-10 (電話) 052-735-1501		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	高度情報学科		平成6年度		平成29年度		
学科の目的	情報技術全般に関する応用的知識・技能を持ち、それを問題解決に活用できる実践力およびソフトウェア開発能力を持ったIT人材を育成する。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【取得可能な資格】基本情報技術者、情報セキュリティマネジメント、応用情報技術者							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,700 単位時間	840 単位時間	2,130 単位時間	単位時間	単位時間
				単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
105人	163人	3人		2%	1%			
就職等の状況	■卒業者数(C)		51人					
	■就職希望者数(D)		50人					
	■就職者数(E)		50人					
	■地元就職者数(F)		38人					
	■就職率(E/D)		100%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		76%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100%					
	■進学者数		0人					
	■その他							
	(令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		(令和6年度卒業生)		アイレット、サイバーコム、アイシン・ソフトウェア、中電シーティーアイ、JBCC、岡谷システム				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			無				
当該学科のホームページURL	URL: <a href="https://computer.trident.ac.jp/courses/advanced_information/">https://computer.trident.ac.jp/courses/advanced_information/</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		2,970 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		240 単位時間						
うち必修授業時数		2,700 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		240 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総単位数		単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		単位						
うち必修単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計		3人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		3人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

常に業界第一線の状況を把握し、最先端の知識や技術を学校として吸収し教育内容に反映していくことはもちろんのこと、学生への教授についても第一線の仕事のすすめ方なども熟知したうえで実施するため、本校で開催する教育課程編成委員会においては、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科、ひいては学校全体の教育運営に資することを目的とする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

名 前	所 属	任 期	種 別
木田 徳彦	一般社団法人ソフトウェア協会	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	①
安藤 晃浩	旭情報サービス株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	③
田中 勇夫	岡谷システム株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	③
佐藤 亮介	株式会社マップクエスト	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	③
渡邊 徹	東海ソフト株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	③
石原 みき	株式会社コスモウィンズ	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	③
勝田 雅人	トライデント コンピュータ専門学校 校長（学校責任者）		-
中原 千賀子	トライデント コンピュータ専門学校 教務チーム チーフ		-
中村 亮太	トライデント コンピュータ専門学校 キャリアセンターチーム チーフ		-
佐藤 浩一	トライデント コンピュータ専門学校 情報処理系学科 学系主任		-
橋本 祐史	トライデント コンピュータ専門学校 情報処理系学科 学科主任		-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。）

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 2024(令和6)年8月29日 13:00~15:00

第2回 2025(令和7)年2月17日 13:00~15:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

ジェネリックスキルを養う社会人基礎力科目やグループワーク科目について、委員からカリキュラム内容が充実しているとの評価があった。一方で、各科目間の連携を強化し相乗効果を高める工夫が必要であるとの意見も示された。この点については、学科内で科目間の位置付けを整理し、体系的な学びが実現できるよう改善を検討している。

また、資格取得率の低下について、教員と学生の間で意識の差があることや学習意欲の低下が課題であるとの意見があった。これを踏まえ、資格試験対策科目においてより具体的かつ実践的な対策内容を導入し、学生の学習意欲を高める取り組みを実施中である。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による演習等の科目においては、企業の業務水準を現実的に体感させることを主目的に設定する。疑似体験的な演習講義を通じて、企業で日常使われている技術・知識を体験、習得させる。また、授業を通じて学生たちが生み出した成果物に対する評価においても、学校という教育環境下での評価ではなく、市場を見据えた企業の現実の評価基準での判定を実施していただく。また、こうした演習全体を通じて、社会人基礎力を涵養していくことも合わせて目的に設定する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

コンピュータアプリケーションを開発する際に、企画立案、プロトタイプ設計、実装という大きな開発の流れがあるが、その要所において、企業の実務担当より課題、評価、助言を得ることにより、より現実的な開発のプロセスを学内の演習授業の中で実体験として再現し、より実務に近い環境を学生に提供する。具体的には、グループによる開発演習において、企業の担当者を学内に招き、プレゼンテーション形式で開発演習の進捗を発表する。その際、企業より質問を受け、課題の提示、進捗内容の評価を受け助言を頂く。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
卒業研究	実機演習に裏打ちされた技術力と豊富な経験を元に、独自テーマでの情報システム開発を行う。発表と相互評価を繰り返し、企業の方からも評価とアドバイスを得る。	株式会社ジェイテック 有限会社オールラウンドプロ デュース

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。研修等の諸規程に定められている通り、年度当初にチーフと学科主任、各教員で実施する研修についての年間計画を立案し1名あたり2～3回の研修を義務付けている。教員はそれらの研修を通じて各々が専門分野の知識向上に努めている。ただし、個人の努力目標のみではなく、業界第一線の知識・技術の習得については学校として機会を積極的に提供していく。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても年度当初に年間計画を立案し、1回以上の実施を法人全体の課題として取り組んでいく。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： Generative AI Exploler	連携企業等： グーグル株式会社
期間： 2024(R6)年6月28日	対象： 学科教員
内容 VertexAIとPaLM APIのハンズオンセミナー（オンライン）	
研修名： Japan IT Weeks 名古屋2024	連携企業等： RX Japan株式会社
期間： 2024(R6)年7月18日	対象： 学科教員
内容 中部地方最大のIT/DX分野を網羅する展示会	
研修名： オープンイノベーション拠点 STATION Ai 施設見学会 （対面）	連携企業等： STATION Ai株式会社
期間： 2024(R6)年10月18日	対象： 学科教員
内容 内容：2024年10月に開業したばかりの日本最大級のオープンイノベーション拠点の内部を見学	
研修名： THE JOURNEY オンラインセミナー	連携企業等： RX Japan株式会社
期間： 2024(R6)年12月3日	対象： 学科教員
内容 企業における生成AIへの取組実績と業務活用のヒント	
研修名： 情報処理安全確保支援士 オンライン講習	連携企業等： 独立行政法人情報処理 推進機構(IPA)
期間： 2025(R7)年3月12日	対象： 学科教員
内容 情報処理安全確保支援士に求められるサイバーセキュリティ関連の知識・スキル・心構えについて	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 主体的・対話的で深い学びの実現～専門学校AL形式 中心の授業スキル向上の習得	連携企業等： 株式会社AL&AL研究所
期間： 2024(令和6)年8月29日	対象： 全教員
内容 AL形式の授業スキルの向上	
研修名： 著作権と学校教育	連携企業等： NPO法人アサーティ ブジャパン
期間： 2025(令和7)年2月27日	対象： 全教員
内容 信頼関係を築く自他尊重の伝え方・聴き方	

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： ゼロから始めるChatGPT x Pythonプログラミング入門講座	テックジム東京本校(事務局)
期間： 2025(令和7)年4月20日	

内容	プログラミングスクール techgym.jp のカリキュラムメソッドを体験する（オンライン）	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：	主体的・対話的で深い学びの実現～専門学校 A L 形式 中心の授業スキル向上の習得	連携企業等： 認定NPO法人開発教育協会
期間：	2025(令和7)年8月20日	対象： 全教員
内容	AL形式の授業スキルの向上	
研修名：	多様な特性（発達障害）を持つ学生を支える教育現場づくり	連携企業等： 名古屋市ナゴヤあいサポート事業事務局
期間：	2026年2月18日	対象： 教員
内容	1時間の講話と30分の質疑応答	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する外部評価を実施する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価
(2) 学校運営	学校運営の方針、学校組織の運営・意思決定プロセス、組織の活性化、業務の効率化
(3) 教育活動	各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム編成、カリキュラムに対する評価体制、各学科のカリキュラム編成方法、IT業界人材ニーズの把握、授業計画・コマシラバス、インターシップ、授業・科目の編成、専門教育・一般教育の配分や考え方、実習の意義、キャリア教育、教育方法の工夫、授業内容の把握・分析・評価体制、講師の採用基準、現在の講師陣の状況、講師の専門性把握および教育スキルの向上、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、退学についての考え方
(4) 学修成果	資格取得指導、資格取得状況、卒業生に対する評価、在校生の作品成果・受賞の状況
(5) 学生支援	就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導、学生生活相談、奨学金や学費についての支援、学生の健康診断、クラブ活動、卒業生支援(同窓会)
(6) 教育環境	学校施設・設備の充実、防災、保健衛生管理
(7) 学生の受入れ募集	入学選考の考え方、学生募集活動の考え方
(8) 財務	予算・監査
(9) 法令等の遵守	法令等の順守
(10) 社会貢献・地域貢献	法令遵守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価及び第三者評価
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

退学率の低減策の一つとして挙げている「学生の授業出席状況」の保護者連絡(年二回)について、もう少し頻度を上げてはどうかとの意見を踏まえ、従来行っていた前期途中、後期途中の二回に加え、前期終了後、後期終了後の二回を加え計四回の連絡を行うこととした。この結果については現在効果測定中である。

また、卒業後のキャリア形成効果把握の実施方法が不明瞭であるとの意見を受け、当校の卒業生に対して現在の就業状況や当校で学んだ内容の効果を問う全数調査を実施した。得られた回答に対して分析を行い、教職員への展開を行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
石本 則子	株式会社ファンコーポレーション	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
笹木原 慎一	株式会社ハ・ン・ド	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
鈴木 敬	株式会社プリアップパートナーズ	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
酒井 章次	株式会社ジェイテック	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
三木 哲朗	竹田印刷株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
佐川 俊彦	株式会社ヤマダデンキ ツクモ名古屋法人営業所	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
村上 貴義	ヤマトシステム開発株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
宮田 利昭	一般社団法人 愛知県情報サービス産業協会 [ A i A ]	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	業界・職能団体
内田 武司	愛知県立春日井泉高等学校	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日 (1年)	高校教諭

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ( ) )

URL : [https://computer.trident.ac.jp/introduction/school\\_more/](https://computer.trident.ac.jp/introduction/school_more/)

公表時期 : 令和7年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

広報的作成物だけではなく、自己点検などの機会を利用して正確な情報を整理し、順次公開を進めていく。また、学生配付物についても、より多様な情報提供をリアルタイムで提供できるように取り組みを進めている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・教育目的、教育目標、学校運営の方針、特色、校長名、所在地・連絡先、学校の沿革、防災、保健衛生
(2) 各学科等の教育	各学科のカリキュラム編成方法、年間の授業計画、進級・卒業の要件、資格取得・検定試験合格等の実績、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の意義、キャリア教育、就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学生生活相談
(7) 学生納付金・修学支援	学費、学費援助制度
(8) 学校の財務	河合塾学園事業報告
(9) 学校評価	自己点検・自己評価報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※ (10) 及び (11) については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ( ) )

URL : [https://computer.trident.ac.jp/introduction/school\\_more/](https://computer.trident.ac.jp/introduction/school_more/)

公表時期 : 令和7年7月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報学科) 令和7年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			社会人基礎力 社会人として活躍するための重要な能力のひとつである「社会人基礎力」は2006年経済産業省から提案された。本科目では、これを構成するいくつかの要素に着目し、各種の課題をこなすことによって社会人として必要な基本スキルを身につける。	1前	90	3	○			○		○	○	
6	○			情報技術 日本のIT産業に携わる者にとっての基本となるこの知識体系は、国家試験「基本情報技術者試験(FE)」のシラバスとしてまとめられている。本科目では、このシラバスに準拠して基本的なテクノロジー知識を習得する。また、システム開発の工程上で作成される各種ドキュメントについて学習する。まずは国家試験「基本情報技術者試験(FE)」の知識体系として基礎を学ぶ。	1通	420	14	○			○		○	○	
7	○			情報リテラシ Officeアプリは単に清書のための道具ではない。すばやいアプリ操作とネット検索のリテラシーを身につけ、大量データを分析し、ドキュメント共有と外部サービス連携を活用することでコラボレーション（共同作業）は大きく推進する。本科目では、ICT活用のさまざまな事例を実習を通じて体験し、生産性向上の基本スキルを習得する。	1後	60	2	○			○		○	○	
8	○			プログラミング技法 Javaは、最も普及しており開発者の需要も非常に高いオブジェクト指向プログラミング言語である。本科目では、Java文法の知識、基本的なデータ構造とアルゴリズムの知識、オブジェクト指向プログラミングの知識を実機演習を通して習得する。HTML5+スタイルシート(CSS3)+JavaScriptは、マルチプラットフォームの実行環境の最有力候補といえる。本科目では、Webページの構造を理解するとともに、JavaScriptを使って動的Webページが制作できる知識を実機演習を通して習得する。C#（シーシャープ）は言語そのものの特徴もさることながら、その開発環境であるVisual Studioの操作性と機能の高さには定評があり、Windows系のシステム開発を手がける企業の多くがC#を主力言語として位置づけている。本科目では、C#言語によるデスクトップアプリ開発を主とした技術知識を実機演習を通して習得する。	1通・2前	300	10	○			○		○	○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報学科) 令和7年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
9	○			<p>情報技術の活用で、これまではできなかった効率的・効果的な問題解決が実現できるようになった。しかしビジネスにおいては、アイデアをアプリで実現するというレベルに留まらず、採算性や事業継続性まで含めたビジネスプランを策定する必要がある。本科目では、ビジネスプランを取り巻く要素について事例研究を通して学習した後、学生を対象にしたビジネスプランコンテストへのエントリーを目指したグループ実習をおこなう。Androidは世界シェア1位のスマートフォン用基本ソフトであり、安定した品質のAndroidアプリを効率的に開発できる技術者が求められている。</p> <p>本科目では、Java言語によるAndroidネイティブアプリ開発実習を通して、イベントリスナー型プログラミングの基礎を習得し、タッチパネル操作を前提としたAndroidアプリ開発をおこなう。</p> <p>スマートフォン/タブレットの出荷台数はすでにPCを越えており、これらを活用した業務システムの開発ニーズは今後も着実に増えていくと予想される。本科目では、Java言語によるAndroidネイティブアプリ開発技術を演習を通して習得する。さらに、オリジナルのAndroidアプリ企画・プロトタイプ開発をおこなう。Apple社のiPhone/iPadは洗練されたデザインと優れた操作性で人気が高く、アプリケーション開発者からのニーズも高い。本科目では、SwiftとXcodeを使用したiPhone/iPadネイティブアプリケーションの開発ができる技術知識を実機演習を通して習得する。最終課題では、オリジナルのiPhone/iPadアプリケーション開発を行う。</p>	1 後 ・ 2 通	570	19		○		○		○	○	
10	○			<p>Linuxの設計思想・基盤などの基本概念を実習を通して触れる。端末によるコマンド操作がどのように役に立つかを体験し、Linuxがなぜ必要なのかを理解してもらう。また、ベンダー資格と同列に位置づけられるLinux技術者認定試験 LPIC-1/LPIC-2それぞれの一部に該当する知識技能を実機演習を通して習得する。全社員が使用するサーバOSの導入においてはネットワークに関する高度な技術知識が必要となる。本科目では、Microsoft認定技術者試験 70-410「Windows Server 2012の導入と構成」に準拠した技術知識、および、Linux技術者認定試験 LPIC-1/LPIC-2それぞれの一部に該当する技術知識を実機演習を通して習得する。</p>	2 前	90	3		○		○		○	○	
11	○			<p>HTTPはフルな通信規約であるため、業務システムをWebで開発する際にはセキュリティ面に十分注意を払う必要がある。本科目では、Apache系HTTPサーバ、PHP、MySQLという動作環境で、Webセキュリティに配慮した応用的なPHPサーバサイドプログラミングができる技術知識を実機演習を通して習得する。</p>	2 後	60	2		○		○		○	○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報学科) 令和7年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
12	○			プログラミング技法	C#（シーシャープ）は言語そのものの特徴もさることながら、その開発環境であるVisual Studioの操作性と機能の高さには定評があり、Windows系のシステム開発を手がける企業の多くがC#を主力言語として位置づけている。本科目では、C#言語によるデスクトップアプリ開発を主とした技術知識を実機演習を通して習得する。	3前	120	4		○		○		○	○
13	○			アプリ開発	Apple社のiPhone/iPadは洗練されたデザインと優れた操作性で人気が高く、アプリケーション開発者からのニーズも高い。本科目では、SwiftとXcodeを使用したiPhone/iPadネイティブアプリケーションの開発ができる技術知識を実機演習を通して習得する。最終課題では、オリジナルのiPhone/iPadアプリケーション開発を行う。	3前	120	4		○		○		○	○
14	○			サーバ管理	全社員が使用するサーバOSの導入においてはネットワークに関する高度な技術知識が必要となる。本科目では、Microsoft 認定技術者試験 70-410「Windows Server 2012の導入と構成」に準拠した技術知識、および、Linux技術者認定試験 LPIC-1/LPIC-2それぞれの一部に該当する技術知識を実機演習を通して習得する。	3前	90	3		○		○		○	○
15	○			ビジネススキル	情報技術の活用で、これまではできなかった効率的・効果的な問題解決が実現できるようになった。しかしビジネスにおいては、アイデアをアプリで実現するというレベルに留まらず、採算性や事業継続性まで含めたビジネスプランを策定する必要がある。本科目では、ビジネスプランを取り巻く要素について事例研究を通して学習した後、学生を対象にしたビジネスプランコンテストへのエントリーを目指したグループ実習をおこなう。	3前	60	2	○			○			○
16	○			デジタル技術	C#（シーシャープ）は言語そのものの特徴もさることながら、その開発環境であるVisual Studioの操作性と機能の高さには定評があり、Windows系のシステム開発を手がける企業の多くがC#を主力言語として位置づけている。本科目では、C#によるビジネス系のWindowsアプリ開発・Webアプリ開発の技術知識を実機演習を通して習得する。	3後	60	2		○		○		○	○

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報学科) 令和7年度																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
17	○			デジタル技術	コンピュータで問題解決させたい分野や状況に応じて、数多くのプログラム言語が存在するし新たなプログラム言語がこれからも生まれてくる。あらゆる用途に向くただ一つの万能プログラム言語という発想はまったく効率的でない。本科目では、ある種のニーズに対して優れた特徴を発揮する開発環境を取りあげ、実機演習を通して習得する。	3 後	60	2		○		○		○	○	
18	○			デジタル技術	本科目では、Raspberry Piを使って、情報処理技術者試験対策の授業時に学んだハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、プログラミング等の基礎技術を具現化するとともに、Webサーバーやカメラ、LED制御など、Raspberry Piで実現可能な、様々なアイデア、技術の表現方法を、実機演習を通して習得する。	3 後	60	2		○		○		○	○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報学科) 令和7年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
19	○		卒業研究	3年間学習してきたことの集大成として、アプリケーションの企画から設計、開発、テスト、プレゼンテーションまで一連の流れを経験する。技術革新の早いIT業界において、常に新しい技術へのチャレンジと、要件定義や設計などの変わらない定石の大切さを学ぶ。また、機能的なシステムを構築するだけでなく、保守性や拡張性を考慮し、ユーザビリティやビジネスモデルまで踏み込んだシステム開発を目指す。	3後	180	6		○		○		○		○
20		○	CG素材制作	情報処理系学科のアプリ制作であっても、著作権フリーのCG素材ばかりを利用するだけでなく、CG素材を自作できるようになると表現力が増す。本科目は、無料で使用できるオンラインソフト/オープンソース系の画像ソフトを使用して、スマートフォンアプリ開発で使用する各種のオリジナルCG素材を作成するための技法を習得する。	2通	120	4		○		○				○
21		○	アルゴリズム	より良いプログラムを作成するためには最適なアルゴリズムとデータ構造の選択をする必要がある。そのためには、いろいろなアルゴリズムやデータ構造の仕組み（考え方）や特徴を理解していることが求められる。基本的なアルゴリズムとデータ構造を理解するとともにC言語の文法を習得し、C言語でより良いプログラミングができるようになることを目指す。	2通	120	4		○		○				○
22		○	AI・データサイエンス	文部科学省は、初級レベルの「数理・データサイエンス・AI」に関する知識をデジタル社会の基礎的な素養（読み・書き・そろばん）と位置づけ、文系/理系・専攻分野を問わずこの分野の能力向上を図るためにMDASHプログラム認定制度を推進している。本科目では、MDASHリテラシーレベルに準じた実習授業を通じて、データサイエンスの基礎を習得する。	2通	120	4		○		○				○
23		○	英会話	コンピュータ技術にも技術者にも国境はない。英語圏の企業やクライアントとのビジネス、交流を意識した準備に取り組む。	2通	120	4		○		○				○
24		○	Python	Pythonは単純化された文法と可読性の高さが特徴の汎用プログラム言語である。データ解析のための各種サードパーティ製ライブラリが充実しており、近年では人工知能(AI)の分野で人気を集めている。本科目では、Pythonによるデータ操作の基礎から機械学習プログラミングまでを、実機演習を通して習得する。	3通	120	4		○		○				○

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報学科) 令和7年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
25		○		ビジネス会計	会計システムの用語を知らないSEが会計システムを設計構築することはできない。会計システムは各種業務システム（購買管理，販売管理，在庫管理など）とも連携し，その影響範囲は広い。本科目では，複式簿記および財務諸表の学習を通して，会計システムを扱う際の基礎知識を習得する。	3通	120	4		○					○
26		○		FP	日本型雇用と呼ばれた年功序列・終身雇用の制度が維持できなくなった現代、日本の労働者たちは各々の人生100年計画において、お金の稼ぎ方・増やし方・使い方に相応の責任を負うことになった。本科目では、ファイナンシャル・プランニングのための基礎知識を習得する。	3通	120	4		○					○
27		○		ビジネス英会話	少子高齢化が進む日本。日本国内という閉じた商圈だけを想定せず，海外に視野を向けてビジネス展開することが当然の企業戦略となっている。そして多くの外国人が，英語を世界共通語として学んでいる現状がある。本科目では，英語でのコミュニケーション実習を通じて，ビジネスの場での基本的な英会話能力を習得する。	3通	120	4		○					○
28		○		システム設計演習	システム開発の工程上で作成される各種ドキュメントについては、これまで主として座学で学習してきた。本科目では、要件定義・外部設計・内部設計・コスト管理などの各種設計書を作成できる技術知識を演習を通じて習得する。	3通	120	4		○					○
29		○		基本情報集中対策	「基本情報技術者試験(FE)」は日本のIT産業に携わる者にとって文字どおり基本となる知識の集大成といえる。IT業界への就職活動においてももっとも評価される試験の一つであり、ぜひ合格を目指したい。本科目では、同試験「午後の問題」の過去の出題を分析し、合格のために必要な知識と解法を習得する。	1後・2通・3通	210	7		○					○
30		○		応用情報集中対策	「応用情報技術者試験(AP)」は解答群に頼らず、記述式で解答する実力が求められる試験であり、IT業界への就職活動においても非常に評価されるため、合格を目指したい。本科目では、同試験「午後の問題」の過去の出題を分析し、合格のために必要な知識と解法を習得する。	1後・2通・3通	210	7		○					○

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報学科) 令和7年度																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
31		○		ITパスポート 集中対策	国家試験「ITパスポート試験(IP)」はテクノロジー分野だけでなく、ストラテジ/マネジメントに関する出題が過半数を占める試験である。学生から職業人へと意識を変えるための教材としてこの試験を活用したい。本科目では、同試験への合格を目標に既出問題を分析し、必要な知識を習得する。	1 後 ・ 2 通 ・ 3 通	210	7	○			○		○		
32		○		情報セキュ リティマネ ジメント集中 対策	「情報セキュリティマネジメント試験(SG)」は2016年に新設された国家試験であり、情報セキュリティ管理の国際標準や公的ガイドラインについての出題を積極的に取りあげている。本科目では、同試験への合格を目標に参考資料や既出問題を分析し、必要な知識を習得する。	1 後 ・ 2 通 ・ 3 通	210	7	○			○		○		
33		○		ベンダー資格 集中対策	ベンダー資格は座学だけでなく実機演習を通して学ばねばならない出題も多く、有名ベンダー資格については国家試験と並ぶほど企業の評価も高い。本科目では、各人で目標とするベンダー資格を選択した後、その合格のために必要な知識を習得する。	1 後 ・ 2 通 ・ 3 通	210	7	○			○		○		
合計						33	科目	99 単位 (2,970単位時間)								

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報学科) 令和7年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
下記条件を満たし、卒業判定会議で承認されること 卒業要件： 1年次：30単位(900時間)以上の取得 2年次：30単位(900時間)以上の取得 3年次：30単位(900時間)以上の取得							1学年の学期区分			2期				
学科、クラス毎に定められた必修科目および選択必修科目を時間割に則って履修する 履修方法：1年次：必修科目31単位(930時間)、選択必修科目2単位(60時間)を履修 2年次：必修科目26単位(780時間)、選択必修科目7単位(210時間)を履修 3年次：必修科目31単位(930時間)、選択必修科目2単位(60時間)を履修							1学期の授業期間			15週				

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。